

美川南町の台車 30年ぶり修理

解体される美川南町の台車。白山市美川浜町の収納庫前



来年度の「おかえり筋」に 祭り披露

28日までに美川浜町の収納庫前で行われた台車の解体を見守った住民は、1年後の祭りでの披露に期待を寄せた。

修理は、美川新町の北島仏壇店の職人が担当し、来年4月ごろまで行われる。同町内会はこれまで、台車修理のために費用を積み立

仏壇の技で 漆、金箔一新

毎年5月に白山市美川地区で開かれるおかえり祭りで、街中を練り歩く美川南町の台車が、30年ぶりに修理される。同町が来年、10年に一度巡ってくる「おかえり筋」にあたることから、町内会が修理を決めた。

毎年5月に白山市美川地区で開かれるおかえり祭りで、街中を練り歩く美川南町の台車が、30年ぶりに修理される。同町が来年、10年に一度巡ってくる「おかえり筋」にあたることから、町内会が修理を決めた。



完成した川北まつりのチラシ
＝川北町商工会

てきた。

25日行われた台車の解体では、同店の職人がクレーンを使って屋根を外した後、細かい部品を取り外した。今後、町内会と同店で協議をして9月までに曳き手や車輪の色を決め、漆を塗り直して金箔を張り直す。

おかえり祭りは5月の第3土、日曜に行われる。藤塚神社(美川南町)の春季大祭。初日は、各町などが所有する13台の台車が神輿を先導して美川地区を練り歩き、2日目は、同地区の10町で毎年持ち回っている「おかえり筋」を通って、神輿が同神社に戻る。

漆や金箔、蒔絵など、美川仏壇の粋を集めて作られた台車は「動く文化財」ともいわれる。美川南町の台車は天保年間(1830、43)に造られたと伝えられ、1935(昭和10)年に屋根部分を傘鉾から唐破風に

45段の大きさが火が燃え上り、関係機関や町内全戸に図を記した。

会場の手取川簡易グラウンドでは、手取元龍太や虫送りの競演、かがり火踊りなどを繰り広げ、北陸最大級の北國大花火川北大会では昨年と同様の約1万8千発が夏の夜空を彩る。

同まつりはテレビ金沢、北陸放送、エフエム石川、金沢ケーブルテレビネットなどが後援する。

1日開催をアピール

川北まつりのチラシ完成

8月1日の第24回川北まつり(同まつり実行委員会、北國新聞社主催)のチラシ2千枚が28日までに完成し、関係機関や町内全戸に図を記した。

会場の手取川簡易グラウンドでは、手取元龍太や虫送りの競演、かがり火踊りなどを繰り広げ、北陸最大級の北國大花火川北大会では昨年と同様の約1万8千発が夏の夜空を彩る。

同まつりはテレビ金沢、北陸放送、エフエム石川、金沢ケーブルテレビネットなどが後援する。

改築した。修理は、79年に行われて以来となる。

美川南町の長島史寛西区长(37)と蓮池信武東区长(67)は「台車は、今後子どもたちに残していく町の宝。ぜひ美しくよみがえらせてほしい」と話した。